

みずほCustomer Desk Report 2019/10/23 号 (As of 2019/10/22)

【昨日の市況概要】

市場營業部 為替營業第二チーム

[昨日の市況概要]				公示仲値	
	USD/JPY	EUR/USD	EUR/JPY	GBP/USD	AUD/USD
TKY 9:00AM	108.60	1.1152	121.11	1.2971	0.6870
SYD-NY High	108.73	1.1156	121.27	1.3000	0.6883
SYD-NY Low	108.44	1.1117	120.59	1.2862	0.6851
NY 5:00 PM	108.49	1.1126	120.69	1.2873	0.6856
NY DOW	26,788.10	▲ 39.54	日本2年債	休場	-
NASDAQ	8,104.30	▲ 58.69	日本10年債	休場	-
S&P	2,995.99	▲ 10.73	米国2年債	1.5986	▲ 2.56bp
日経平均	休場	-	米国5年債	1.5900	▲ 2.15bp
TOPIX	休場	-	米国10年債	1.7668	▲ 3.51bp
シカゴ日経先物	休場	-	独10年債	-0.3700	▲ 2.25bp
ロンドンFT	7,212.49	48.85	英10年債	0.7110	▲ 3.70bp
DAX	12,754.69	6.73	豪10年債	1.1725	2.95bp
ハンセン指数	26,786.20	60.52	USDJPY 1M Vol	5.53	▲ 0.18%
上海総合	2,954.38	14.76	USDJPY 3M Vol	5.78	▲ 0.05%
NY金	1,487.50	▲ 0.60	USDJPY 6M Vol	6.23	0.00%
WTI	54.48	0.97	USDJPY 1M 25RR	-0.98	Yen Call Over
CRB指数	175.51	0.77	EURJPY 3M Vol	6.29	▲ 0.17%
ドルインデックス	97.53	0.20	EURJPY 6M Vol	6.73	▲ 0.07%

東京	7時7分間のドル円は108.60レベルでオープン。英国のEU離脱に関して楽観的な見方が根強く残る中、ドル円は一時108.73まで上昇。しかし、東京休日で市場参加者が限られる中で上値を追う動きに乏しく、すぐに108.60近辺まで反落。その後、「米中通商協議で一定の進展」との報道が伝わるも、マーケットの反応は限定的となり、108.60近辺での揉み合い推移が終始した。結局、同レベルで海外市場に渡った。(香港時間14:30)
ロンドン	ロンドン市場のドル円は、108.60レベルでオープン。東京休日の中、特段の材料もなく狭いレンジでの取引に終始。108.49-62円で推移しほぼ変わらずの108.60レベルでNYに渡った。ポンドドルは、1.2972レベルでオープン。昨日提出された離脱協定法案の審議を本日英時間夜に控える中で上値重い推移。値幅は限られたが、一時1.2922まで下落し1.2933レベルでNYに渡った。(ロンドンブリ- 00531 444 179 神田)
ニューヨーク	海外市場のドル円は、「即位礼正殿の儀」で東京市場が休場となる中、108.60近辺で方向感無く推移し、108.60レベルでNYオープン。朝方は米金利の低下を横目に108.46までじりじりと下落するが、その後、米金利が上昇に転じたことから、売りは長続きしなかった。また、ダウ平均がプラス圏に浮上したことや、米10月リチウム電池製造業指数が予想を上回ったことにドル円の上昇をサポートし、108.60まで買い戻される。午後はブレグジットを巡り、英議会でジョンソン首相のEU離脱協定法案が第二読会が可決されたことや、審議日程は否決されており、10月末までの離脱案合意が難しいとの見方が強まったことから、下落するポンドドルに連れ安となり、108.44まで反落する。終盤にかけても手掛かり材料が乏しく、価値19銭の狭いレンジでの推移に終始し、108.49レベルでクローズ。一方、海外市場のユーロドルは、EU側が11月7の来年度予算案がユーロ圏の財政規律に遵守しないと述べたことや、欧州株が上げ幅を縮小する動きに圧迫され、1.1134までじりじりと下落し、1.1138レベルでNYオープン。朝方は海外市場の流れに引き継ぎ、1.1123まで下落。その後、ユーロドルの上昇にサポートされ、1.1154まで買い戻されるが、先述のブレグジット関連のヘッドラインを受けて下落したポンドに連れ安となり、1.1117まで反落。終盤は小幅値を戻し、1.1126レベルでクローズ。

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。ここに記載された内容は事前連絡なしに変更されることがあります。投資に関する最終決定は、お客様自身の判断でなされるようお願い申し上げます。また、当資料の著作権はすべて銀行にあり、その目的を問わず無断で引用または複製することを禁じます。なお、当行は本情報を無償でのみ提供しております。当行からの無償の情報提供を望まない場合、配信停止を希望する旨をお申し出ください。

担当:加藤・原田 TEL:03-3242-7070 FAX:03-3211-5825 LDN 00531-444-179 NY 00531-113-682

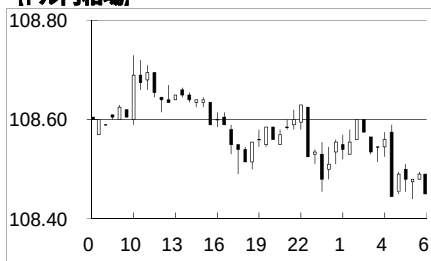
【昨日の指標等】

Date	Time	Event		結果	予想
10月22日	23:00	米	リッチモンド連銀製造業指数	10月 8	-7
	23:00	米	中古住宅販売件数	9月 5.38m	5.45m

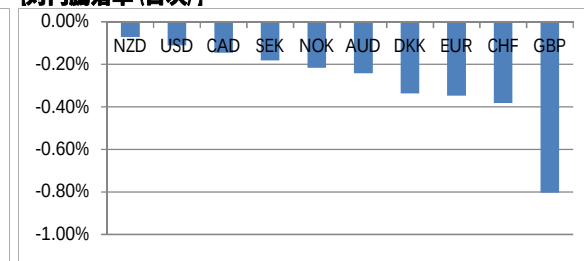
【本日の予定】

Date	Time	Event	予想	前回
10月23日	23:00	欧 消費者信頼感指数	10月 -6.8	-6.5

【ドル円相場】



【対円騰落率（目次）】



【マーケット・インプレッション】 パックス・アメリカーノが揺らいでいる

先の大戦以降に世界の軸となってきたパックス・アメリカナが揺らいでいる。ソビエトとの冷戦でも不戦勝をおさめた米国は世界の指導者としての役割に自信過剰になってしまい、米国の理念である自由民主主義こそが世界の共通理念であると盲信してきた気がする。中国についても、足許でこそ一党独裁であるものの、経済が発展し国民の所得水準が向上すれば国民自ら自由民主主義を選択するであろうと決めていた。だからこそ米国は中国の経済発展を陰で支え民主化をサポートすることが重要であると考えていた。ところが米国の自由民主主義的な市場経済の歪みがあちこちで露呈し始めると中国は200年の雌伏から目覚め米国の覇権に挑戦者として名乗りを上げた。こんなときは当然のアメリカも、本邦を始めとした他国も予想だにできなかったに違いない。いずれにしろ、戦後世界の大枠を決めてきたパックス・アメリカナが、アフガンスタン、イラクで血を流し、リーマン危機で経済的な脆弱さを露呈し、更に中国の予想外の実現に直面して大きく揺らいでいる。

このような状況下でトランプ大統領は今まさに2期目に向けてディール外交を推し進めているわけだ。当然、北朝鮮やイランの問題ですら何らかのディールを求めるだろうことは想像に難くない。その場合為替相場はやはり「リスクオン」の名目で円売りが目立ってきそうではある。ただ、たとえトランプが再選を果たしたところで、いや、他の誰が大統領に選ばれようとバックス・アメリカノの後退は避けられないであろうし、結局アメリカはますます内向的になると思う。足許では仮想通過が幅を利かせ伝統的な中央銀行制度に挑戦を始めた。この時期にアメリカが内向的になってしまうのは必然な偶然であろうか。我々はゴルディロックス相場に胡坐をかいている場合ではなく、臨機応変に変わっていく必要がある。(加藤)

	竹内	加藤	関	光石	岡本	上野	原田	玉井	ブル	ペア
Today	ペア	ペア	ペア	ブル	ペア	ブル	ペア	ペア	2	7
Week	ペア	ペア	ペア	ブル	ブル	ブル	ペア	ペア	3	6